

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800814		
法人名	株式会社 安養介護サービス		
事業所名	グループホームあんよう荘3階		
所在地	千葉県市川市南大野2丁目30番17号		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年4月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成26年2月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、日常生活の支援及び心身の機能訓練を行う事により個々の入居者様が有する能力に応じ、可能の限り自立して生活を営むことが出来る様、又、当ホームでの生活を継続出来る様に適切なサービスを提供いたします。ホーム内は家庭的な明るい雰囲気作りをしており、入居者様が人間としての尊厳を失わず明るく楽しく幸せに余生を過ごせるホームの実現を目指しており、特に残存機能自立支援を兼ねた大型貼り絵(市川市明青展に毎年出展)や布製の人形の共同制作は入居者様にとっても楽しみであると同時に恒例行事にもなっており、当ホームの大きな特長となっております。来年度は連続出展10年達成で市川市から表彰を受けることになってます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活全般をリハビリと捉え、積極的に色々なアクティビティーを日常生活に取り入れ、一人ひとりの入居者の有する能力に応じて出来ることは続けていただき、可能な限り自立して生活が営めるよう個別自立支援に向けたケアに努めている。判りやすい表現の9項目の理念を共有し、特に「一人ひとりの尊厳を大切に、生活の主体者として自信を持って生きていけるよう支援します」との理念を主任を中心に職員がチームワーク良く実践に繋げている事は、ホームの家庭的な雰囲気と入居者の明るい表情からも窺える。入居者が共同制作した貼り絵や人形を10年に渡って市の展覧会に出品したり、公民館での地域交流会やサロンなどの催しに積極的に参加する等地域との交流にも力を入れて取り組んでいる。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各フロアに提示し、職員のミーティングを通して理念を共有して実践しております。	9項目の判りやすい言葉で書かれた理念を事務所と各フロア玄関に掲示している。毎月のミーティングなどで職員に繰り返し周知徹底し、特に認知症であっても人間としての尊厳を持って生活していけるようケアすることを大切に理念の実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のクリーン作戦や地域交流会に参加をしております。また、今年には自治会の班長を務めております。	自治会に加入し、班長として地域のクリーン作戦などの活動を積極的に行っている。公民館のサロンに毎月参加また地域交流会にも参加し地域の一員として交流し続けている。子ども会との交流や地域ボランティアに来て頂いて敬老会を実施したりと地域との関係が出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会などの行事等では地域ボランティアの方々に協力した頂いております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに開催しており、地域の在宅支援介護センターの職員も参加をしております。	在宅支援と地域包括支援センター職員、地域民生委員や家族の参加を得て、2ヶ月に一度定期的に開催している。入居者情報や行事報告等を議題とし、参加者との意見交換では、特に地域交流についての情報や健康体操の案内などをサービス向上に活かすようにしている。	行事に合わせて開催したり、議事録を家族にも送付するなど家族や地域の方の参加を増やす工夫を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム地域連携会議や運営推進会議など通じて取り組んでおります。	月に1・2度は市役所を訪問し介護保険課担当者や情報を共有するようにしている。グループホーム地域連携会議に参加し地域支援課の方との連携を図っている。地域包括支援センターとは入居者についての相談など、市との連携は良く取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを行い職員の理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでおります。	ホーム内研修で身体的拘束だけでなく言葉による抑制も含めて禁止となる具体的な行為などの職員理解を継続して高めていくようにしている。「身体拘束排除宣言」を掲示し、身体拘束をしなくても済むケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを行い職員の理解を深め虐待防止に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、成年後見制度を利用する入居者が増えており、活用しております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、ご来荘していただき、書面と口頭で十分な説明を行っております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と職員の日々の交流や、事務所に運営適正委員会の案内を提示し、意見・要望を表せるように努めております。	毎月の「あんよう荘だより」で医療・食事・入浴・排泄など具体的な項目毎に入居者の状況を報告している。来訪される家族にはその都度意見や要望を言うていただくようにしている。運営適正委員会の案内を事務所に掲示し外部にも意見要望を表せることも知らせている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との日々の交流などで意見や提案を聞く機会を設けております。	出勤退勤時に事務所で話し合ったり、フロアミーティング時に職員の意見要望等を出し合っている。待遇改善や希望休など運営に反映させている。現場業務に関することはどんな些細な事でも主任に話す体制を取っており、主任が集約精査して管理者と協議し運営に反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	26年3月分より社員・パートの給与増額を致しました。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を実施し、また、必要に応じて県・市・協会等で行う研修に参加できるように努めております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会や県内の協会に加入し、グループホーム地域連携会議などに出席しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>不安にならない様な環境づくりやコミュニケーション取り、訴えがあった時は話を聞きし、またはお気持ちを汲み取り安心を確保するための関係づくりに努めております。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご相談時から時間の許す限りコミュニケーションを取り、ご家族が困っている事、不安な事、要望等を共に考えながら安心を確保する関係づくりに努めております。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の心身状態を把握し、今何が出来るか・何が出来ているか・何をしたいかを確認しながら機能が維持出来る支援に努めております。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様との共同生活の場であることを、常に念頭に置き出来る限り作業を共にしております。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>今の症状の段階を理解出来る様に支援をして共にご本人を支えて行く体制を取っております。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人・知人の面会連絡があった時は、ご家族様とも相談し行っております。また、入居者様宛てに年賀状や郵便物等も届きます。</p>	<p>入居時に馴染みの人や場所を把握するようにしている。馴染みの友人や知人に会いたい、またよく通っていた場所に行きたいなどの希望があった時は家族に連絡し極力実現できるよう支援している。年賀状のやり取りをお手伝いしている入居者もいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士と一緒に出来る作業・レクレーションを、職員が輪の中に入り孤立のないように努めております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様からの相談があればその事に対して出来るだけの支援をしております。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や生活の様子を観察し、思いや意向の把握に努めております。	入居以前の本人の生活歴や家族構成等は勿論のこと、暮らし方や思いを、本人・家族から詳しく聞き取って個人ファイルに纏め、更に入居後に職員達が把握した情報を細かく記録して全員が共有し、介護計画に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネジャーから情報を努めており、また、ご入居後はご本人様・ご家族様とのコミュニケーションからも把握に努めております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・表情・言動・食事・水分摂取量・等で把握し、日々の過ごし方については、意思を確認し入居者様のペースを尊重しております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの要望も反映させながら、介護主任が中心となり柔軟に介護計画を作成しております。	介護現場の職員は、日々入居者の24時間毎の行動を記録に取り、今何が出来るか等の意見を出し合い、これを取り纏めて介護主任・介護支援専門員がケアプランを作成している。モニタリングは毎月実施し見直しの要否を検討し、変更・更新時には家族の意見も聞くようにしている。プランに関係する現場職員の意見が良く反映されている。	介護計画について家族に説明や話し合う場の設定を工夫するなど、チームで作る介護計画作成を更に充実することを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添ってのケアの実践・結果・状態の変化等を記録し、情報を共有しながら計画の見直しに努めております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に添ってのケアの実践・結果・状態の変化等を記録し、情報を共有しながら計画の見直しに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のクリーン作戦や、地域交流会・消防訓練等の参加で入居者様が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを営むことが出来る様に支援をしております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にしており、希望者には協力医療機関から毎月の往診を受けることが可能です。	今迄からの馴染みの医師に受診している入居者が数名おり、本人・家族の意向が尊重されている。毎月、協力医療機関から往診を受けている。また受診情報は記録され全員が共有できている。更に薬はトリプルチェックで厳しく管理され、誤薬を防止している。受診は入居者・家族にとって大きな関心事であり、ホームとして出来る限りの支援を行なっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は居りませんが、有資格者の主任を中心として職員全員が入居者様の状態を把握し、状態の変化に早期対応を出来る様にしております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ご入院の際は、担当医・ナースまたは、ご家族様の希望を得ながら情報交換をし早期退院に努めております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りの支援をして行く方針ですが、医療対応が大きくなった場合はホームの設備的に困難なこともありますので、医療系の施設に託す考えを入居相談時に説明し理解を得ております。	入居者・家族の希望に沿って、ギリギリまで支援するよう努めているが、重度化や終末期に向けた支援は、医療体制・職員態勢共に困難な実情から、医療の必要な場合は、医療機関を幾つか紹介し最適な選択をして貰える支援をしており、パンフレットや重要事項説明書で良く説明し、了解を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書・ひやりはっりに記録し、常に事故防止に努めております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた消防避難訓練を、同ビルテナントの従業者と一緒に市川市消防局の協力を得て行っております。	年2回、消防指導による避難訓練を実施し、夜間想定も訓練も行っている。消防の指示による一時避難場所も決まっている。自動通報装置やスプリンクラー等の設備も完備している。また食料・水の備蓄もできている。更に、セコムと緊急時対応契約を結んでいる。	夜間、職員の少ない時間帯での避難訓練の回数を増やす事によって職員の避難誘導の習熟度を上げられるよう期待したい。併せて電器機器・ガス器具と其の周辺設備の日常的な点検を確実に励行されるよう希望したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳とプライバシー確保については、主任が中心となり指導を徹底し認識を深めております。	管理者は言葉遣いを重要視しており、基本的に敬語で接するよう職員に指導している。尤も入居者の希望に応じて親しみを感じる話し方をしたり、呼称を使うこともある。特に新職員にはOJTを通して指導に当たっている。トイレへのいざない時の声掛けにも気を遣っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に応じて散歩・個人的な趣味を、ご自身で決定出来る様にしております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、個々に合わせたペースを保つ支援を行うように努めております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事または気温に合わせて、入居者様の好みを取り入れ支援をしております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や、土曜日朝食のパン食、月1回の入居者様の希望するお好み食を実施し食事を楽しむ支援をしています。	日常のメニュー以外に、毎月「お好み食」を実施し、幾つかのメニューを提示し入居者の好きな物を選択して貰い食材を購入している。また、土曜日はパン食にしている。誕生会やひな祭り・クリスマス会等の行事食も欠かさない。敬老会には豪華な仕出しのお重を出すなど、食を楽しんで頂く工夫に余念がない。調査訪問時には、各ユニットとも全員が箸を使って、職員と一緒に昼食を楽しんでいる姿が印象的であった、	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量については、全入居者様の記録をしております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがいなどが十分に出来ない入居者様は、職員が支援を行い清潔になるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、習慣や傾向を把握し尊厳に配慮をしながら誘導を行っております。	基本的に座位がとればトイレで排泄できるよう支援しており、排泄パターンを把握して適時声掛けていざなっている。元々オムツ使用だった人が入居後にリハパンやパッドに変更できた嬉しい例があり、排泄の自立を大きな柱と捉え、これを根気強く実施している結果の表れといえる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動・食物(牛乳・ヨーグルト等)などで、入居者様個々に応じた予防に努めております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、ゆず湯や入浴剤などを使用し、また、石鹸類などは個人で揃え楽しんで頂ける様に努めております。	基本的に週2回の入浴としている。脱着衣の場にはヒーターを設えて温度管理をしている。要介護度が進み、入浴時は現在始どの入居者に職員が付いて見守り・介助を行なっている。入りたがらない入居者には声掛けの方法やタイミングを見計らう等工夫を凝らしている。入浴剤や季節に応じたゆず湯等もいざないの1方策として使うこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の軽い運動や作業・散歩などで体を動かし、安眠が出来る様に支援を行っております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように、準備の段階から服薬まで3人の職員がチェックをするようにしております。また、薬の用法は処方箋を見て確認しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様には、各々の作業の分担を決めて、気分転換と活気が出るように支援を行っております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は必ず散歩に外出いたします。又、明青展や公園などにも車でっております。	ホーム内では自力歩行の可能な入居者も、外出時にはクルマ椅子の使用が欠かせない事が多い。夫々の能力に応じて5～30分の散歩コースを決め、職員付き添いで外出している。冬場や雨の日はホーム内の廊下を歩行し、下肢訓練を行なっている。入居者の眼を外へ向けて貰えるよう、出掛けたがらない入居者の外出支援への工夫を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、当ホームでは金銭管理はしていませんが、ご家族と相談の上、小額をお守り代わりに所持されているご入居者様もおります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と職員が共同制作した、ちぎり絵や貼り絵などをリビングに飾り家庭的で温かい雰囲気的空間にしています。	食堂兼リビングの部屋には季節の花や造花が飾られていて、観葉植物も多く置かれている。廊下には写真や職員達との共同作品が適度に貼付されている。明るくて温湿度管理が行き届いていて、ゆったりと寛げる空間となっている。特徴的なのは、廊下の両側に手すりを取り付け、転倒防止に細心の注意を払っている事である。入居者同士の相性を把握して座る位置等も決めている。また一人になりたい人のために、出窓付近にソファも置いている。夜間もダイニングとトイレには空調稼働させ温度管理を徹底している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどで、入居者様同士で日向ぼっこや雑談、または、音楽などを聴いて自由に過ごされております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れている品物や大事にしている物、または、ご本人が希望した物を居室に取り入れております。	全室畳敷きの居室で、入居者の好みに応じてベッドを使用したり、直に布団を敷いている部屋もあり様々である。テレビや置時計・使い慣れた調度品・思い入れの写真・人形を持ち込んでいる。部屋の掃除は、出来る人は職員と共に行なっており清潔に保たれている。また寝具を小まめに日干して衛生管理もなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を利用し歩行したり手摺りを使い運動をしております。居室やトイレなどに表示をして自立支援に努めております。		